

令和6年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会議事録

日 時：令和6年7月5日（金）午前9時30分～午前11時

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第1会議室

出席者：審査委員6名

【新川清司、杉浦幸雄、土屋裕子、鳥居多佳子、角谷恵里子、山本貴史】

：事務局4名【杉浦英樹、堀田葉子、水村浩一郎、清水真樹】

：説明者1名【市民活動センター長 長谷川】

傍聴者：なし

会議内容

1 あいさつ（新川委員長）

2 議題

(1) 令和5年度市民活動センター事業報告及び決算について

長谷川センター長より説明。

審査委員：相談内容が変わったから件数が変わったといったが、どのように変わったのか？

説明者：なんでもいいから話をしたら1件とカウント。20年度に市と協議をしてカウントの仕方を変更。現在は本当の相談だけを計上。

審査委員：人件費1200万円とあるが何人分での計算なのか。

説明者：9時から17時までの一日あたりで2名。

審査委員：賃借料は予算の1割も使っていない。何か予定が変わったのか？

説明者：これは掃除の費用。5年間の当初の中で、リース等も変わったため。

審査委員：来期以降は減らせるのか？

説明者：リース契約が切れており、メンテナンス契約のみになっているものもある。これについては契約を検討する。

(2) 令和6年度市民活動センター事業計画及び予算について

長谷川センター長より説明。

審査委員：地域の幸せを感じるまちづくりとあるが、何か具体的に進んだことは。

説明者：おととしから、トヨタ自動車の課長、JCとつながりができ、情報のや

り取りができた。昨年から公民館まつりに参加。災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを立ち上げる体制ができた。

審査委員：今は、サポプラに来れば相談できるということの周知が足りない。もっと知らせてほしい。

説明者：まちづくりの担い手講座で担い手を養成しており、その卒業生がまちづくりのコーディネーターをすることで徐々に周知されつつある。

審査委員：それは個人。団体は。

説明者：プロボノという仕組みで一部活動が進んでいる。

審査委員：市民活動センターの今後の方向性は。

説明者：ボランティア活動（町内会活動を含む）を進めていこうというのが市の方針。市民団体やボランティア団体の育成支援をしようということで、設置されている。その中でまちづくりに貢献できないかというのが考え方。団体の問題意識を積み重ねるとそれはまちづくり。お互いに助けあえる部分の下支え。

審査委員：ここに相談するところがあるということ、もっと外に向けて発信してほしい。

説明者：できる範囲でやっている。市の広報での活動内容の掲載や、去年から公民館まつりにも参加している。

審査委員：愛知ネット自体が、待っているのではなく、提案をしてほしい。市民活動センターから発信してほしい。来たら助けるのではなく、発信して集めるということをしてほしい。

審査委員：事業収入が年々増える予算。どんな事業を計画しているのか。

説明者：コピー使用料など。

(3) 指定管理第3期における市民活動センターの事業計画について
長谷川センター長より説明。

3 その他

審査委員：団体からの相談に対し、その結果としてこう良い点があったということ、教えてほしい。

審査委員：各団体に相談した結果については、各団体から報告した成果まで報告を求めるのを酷ではないか。

審査委員：相談の結果、どうなったのかという報告の範囲ではないのか。

説明者：相談後に来なくなると、状況が把握できなくなる。